

小美玉市の歴史を知ろう② 小川稽医館の碑 ～江戸時代の地域医療の場～



の検討や医療実習を行っていました。

「小川稽医館草設の医生名簿」によると、郷医たちは、水戸、(竹原)中郷村、井関村、玉造村および青柳村などの各地から参加していることが分かります。

稽医館の碑は、高さ160cmの

稽医館以前の歴史、稽医館創設の由来、医道の心得などで構成されています。

撰文(文章をつくる人)は、水戸藩南郡の郡奉行小宮山楓軒、篆額(篆字で彫った題字)が水戸藩小姓頭で能筆家として有名なあつた鶴殿広生によるものです。

天保十二年(一八四一)、第九代水戸藩主徳川斉昭は、文武両道を教育方針とした藩校弘道館を創設します。安政五年(一八五八)、稽医館は、藩校弘道館の指導下に置かれ、名称も小川郷校と改名されました。しかし、稽医館時代の伝統は受け継がれ、医学振興も重視されました。

稽医館の碑は、小学校の敷地内にありますので、間近では見ることはできませんが、小川資料館に碑の拓本が展示されています。

小川小学校の校歌の中には、「庭の桜木年古りてその昔しのぶ碑の苔むす面文字かすか由緒は深し小川校」という歌詞があります。校歌の中に歌われている碑は小川小学校の校門をくぐった右側にある「水戸小川稽医館碑」のことです。

この碑にある稽医館とは、文化元年(一八〇四)、小川村の郷医(町医者)であつた本間玄琢(一七五五―一八二四)が創設した医学修練所で、小川小学校の敷地内にありました。館では、近郷の郷医たちが集まり、毎月五日と二十日に定例の研究集会を開催して、治療法



水戸小川稽醫館碑銘并序 郡奉行小宮山昌秀撰文
常陸茨城郡小川城園部兼泰始築之其後世属小田氏
及天正中有國部宮内大輔子助太郎為徳竹義宣所滅
慶長中戸澤右京亮政盛封焉政盛移封於手綱城之後
即以其地益入我 威公封域之中 公乃就其地
構別館為游息之處後置運漕奉行事和中予奉治民之
職無領運漕事移其局於上戸村小川醫奉間玄琢等請
以其舊館為醫書講習之處予喜其舉上其事 文公
命許之名曰稽醫館於是醫人集會肄其業者日益進皆
感 公之恩請予記其事乃系以銘曰
維民之生所欲供樂維病之發所仰鍼藥行遠者假於車
濟江者因於航非假醫力誰濟夫橫嗟生死所係慎之戒
之戒慎如何任仁以治
文政元年二月二日建 小姓頭鶴殿廣生書及篆額